

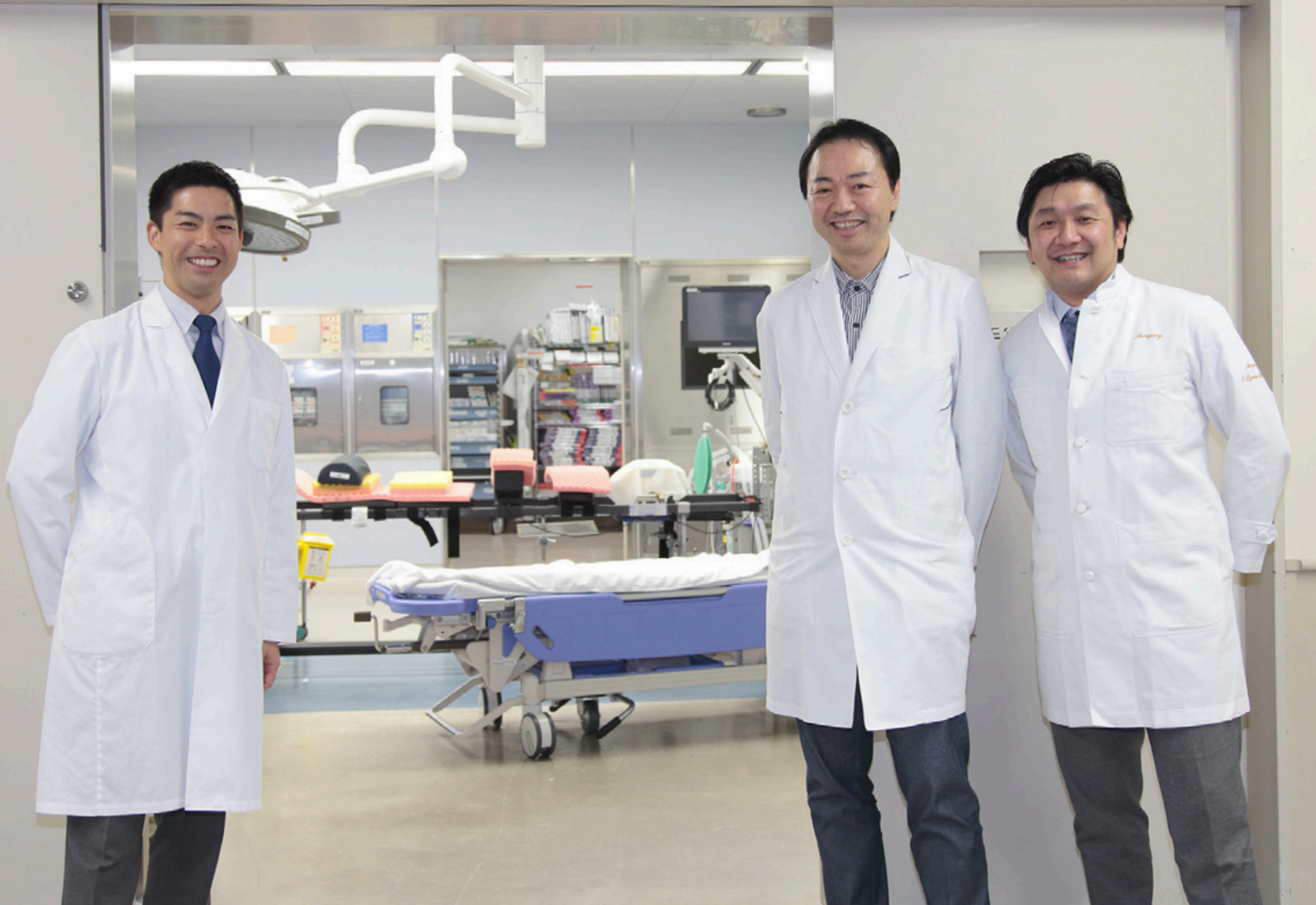
TOBU

私たちは、
医療を通じて
いのち
生命を守ります。

2018
MAY
春号
vol.

22

済生会横浜市東部病院広報誌



【特集】

がん治療の選択肢を広げる 注目のロボット手術

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

華麗な手技を
WEBで公開！



【CONTENTS】

リーダーたちが語る東部病院の医療

【vol.14】脳卒中内科医を通した35年間
そして今、新たな地点へ

統括院長補佐 丸山路之

【春号トピックス】医者メシ 隠れ脱水

最先端の 「ロボット手術」が 叶えるこれからの医療

患者支援センター ロボット手術センター 東部がんセンター

谷口英喜 × 石田 勝 × 江川智久

2018年1月に「ロボット手術センター」が開設されました。センターを支える3人のドクターにお話を聞きました。

3つのセンターが連携 低侵襲でがんを診る

江川 今、日本ではロボット手術を受ける方のほとんどはがん患者さんで、従来の開腹手術、腹腔鏡手術と並んでロボット手術も治療の選択肢となります。ロボット手術センターができて、熟練した医師が安全に手術できるチーム医療の環境が整ったことは東部がんセンターにとっても非常に大きなことです。

石田 がんセンターとロボット手術センターは、患者さんから直接見えにくいところでしっかり協力をしていますし、患者支援センターを含めた3つのセンターで「がんをちゃんと診ていこう」という点で連携しています。

谷口 ロボット手術を受ける患者さんは手術前、後に患者支援センターにかかります。ロボット手術は低侵襲を確実にやってくれますから、我々はその前後をカバーする。手術前の不安や疑問を解決したり、手術後の痛みや吐き気を抑えたり。普通、低侵襲といえば手術中のみなんですが、術前、術後もストレスの少ない状態でがんを診られるのは安心ですね。

石田 僕は前立腺がん手術の件数を重ねる中で、ロボット手術のよさを体感しています。身体へのダメージが軽減されるだけでなく、精密な動きで難易度の高い手術が可能になり、より安全にできるようになった。以前は開腹手術を選んでいて症例でもロボット手術を選択することが増えています。

江川 ロボット手術では難易度の高い手術ほど、通常の腹腔鏡手術と比べて合併症が少ないと言われていて。がんの手術の場合、術後の合併症により免疫力が下がると予後も悪くなってしまうんです。ですからロボット手術は患者さんの生存にもプラスに働くのではという期待があります。

谷口 リスクが高くて今まで手術が受けられなかった高齢者も身体に負担が少ないから受けられるようになり、術後の回復も早くなります。飲食や、体を動かすことがより早くできて、社会復帰が順調にいく。

石田 前立腺がんの人だったら失禁が減ったり回復が早くなる、あるいは性機能の温存の可能性が上がる。これも低侵襲で緻密な手術が可能だからこそです。

多くのプロフェッショナルが 患者さんの意思決定を支援

江川 ロボット手術を保健適用で行うには、装置の他に基準を満たす実績が必要です。その意味で東部病院は神奈川県下でも数少ないロボット手術のできる病院です。放射線療法や薬物療法など他の治療法も選べる。がん治療において東部病院は非常に選択肢の幅が多いのです。

石田 経験を積み上げた医師たちが、自信を持ってロボット手術の選択肢を患者さ

んに提示できる。これは我々の強みだと思っています。

江川 そうですね。それに患者さんの治療選択の場には必ずがん認定看護師が同席します。主治医以外の医療職が立ち会い、主治医1人の思い入りで治療が選ばれない体制ができています。

谷口 ダブルチェック、トリプルチェックが入りますから、患者さんは安心して治療に臨んでいただけますね。

症例を積み重ねて 専門家の教育も

石田 今春、ロボット手術の保険適用が広がりました。現在、約9割が泌尿器科の領域ですが、今後は胃がんや食道がんなど消化器科の領域や婦人科でもロボット手術を受ける方が増えてきます。

谷口 症例を積み重ねることで我々のロボット手術支援のスキルも向上しています。

石田 症例が多いと新しい技術者も増やしやすいです。積極的に国内外の施設や新しい治療、手術を見て学び、患者さんに還元していきたいですね。将来にわたって良い手術を受けられるように教育体制も整えていきたいです。

江川 そうですね。医師を含め、ロボット手術専門の看護師など、各職種のスペシャリストが必要だと感じています。

谷口 実は今、ロボット手術なら当日入院、当日手術も不可能ではないと考えているところなんです。

江川 治療期間が短いのは質の高い医療でこそ実現できること。これからもいっそう連携を進めていきましょう。



左 谷口英喜 Hideki Taniguchi
患者支援センター

中 石田 勝 Masaru Ishida
ロボット手術センター

右 江川智久 Tomohisa Egawa
東部がんセンター



最新のダヴィンチ Xi に 2016 年 10 月にバージョンアップ

医療最前線

～ロボット手術って何だろう？

2018年4月、これまで前立腺がんなど一部の疾患に限定されていた「ロボット手術」の保険適用が拡大しました。がん治療には大きく外科療法（手術）、放射線療法、化学療法（薬物療法）の3つがあり、ロボット手術の導入により、さらに選択肢の幅が広がりました。

手術支援ロボット

『ダビンチ』による手術

ロボット手術は、腹腔鏡（ふくこうきょう）手術支援ロボット『ダビンチ』を使って行う手術です。ダビンチは1990年代にアメリカで開発され、東部病院では2012年より運用を開始しました。患者さんの身体にやさしい腹腔鏡手術の特徴を生かし、患者さん、医療者ともにより負担が少なく、より安全に手術を行えるのがロボット手術です。

保険適用疾患（当院で実施可能なもの）

- ・前立腺がん（前立腺全摘）
- ・腎細胞がん（腎部分切除）
- ・膀胱がん（膀胱全摘）
- ・胃がん（切除・噴門側切除・全摘）

ロボット手術のメリット

ていしんしゅう 低侵襲

傷の大きさや切開範囲が小さいので出血量や痛みが減ります。体にかかる負担が軽減し術後の回復も早まります。

高精度

手術中、高倍率のカメラにより部位を拡大して見ることができます。ロボットの指先は自由自在に動き、高精度の手術が可能です。

安全性

細かく正確な操作が可能のため、周囲の神経や細い血管を傷つけるリスクが少なく、手術に伴う合併症が軽減。機能の温存がしやすくなります。

精緻で難易度の高い手術が可能に！



Doctor's Message



石田 勝 Masaru Ishida
済生会横浜市東部病院
ロボット手術センター長代理

私自身がロボット手術を手掛けてきて感じたメリットは、第一に精度と安全性です。繊細な手術が間違いなくできる。これは臓器や機能の温存にもつながります。例えば腎臓がんの手術では病巣だけを正確に取り除くことが難しく、これまでは腎臓を全摘せざるを得なかったところ、ロボット手術のお陰で部分切除できるようになりました。こうした高難易度の手術が安心して行えることは、患者さんだけでなく私たち医療者にとっ

ても非常に喜ばしいことです。1月に「ロボット手術センター」が開設され、患者さんをお待たせすることなく手術を行える体制が整ってきています。今後は私自身が日本とヨーロッパで学んだことをもとに研修カリキュラムを確立し、ロボット手術の認定医をより多く育てるのが目標です。症例数の多い泌尿器科だけでなく、様々な分野の医師がロボット手術に挑戦してそのよさを体感し、価値を患者さんに提供していきたいと考えています。

ロボット手術の素朴な疑問

Q1 ロボットが手術するの？

A 手術の機器を「ロボット」と呼び、操作はあくまで外科医が行います。

例えば前立腺がん手術では、腹部に6か所の小さな穴をあけ、鉗子（先端にメスやピンセットなどがついた手術器具）とカメラを挿入し、医師が3D画像を見ながらロボットアームを遠隔操作して手術します。

Q2 どんな病気でロボット手術が受けられるの？

A 治療実績で多い疾患は、泌尿器科の前立腺がん、腎細胞がん、保険適用で受けられます。

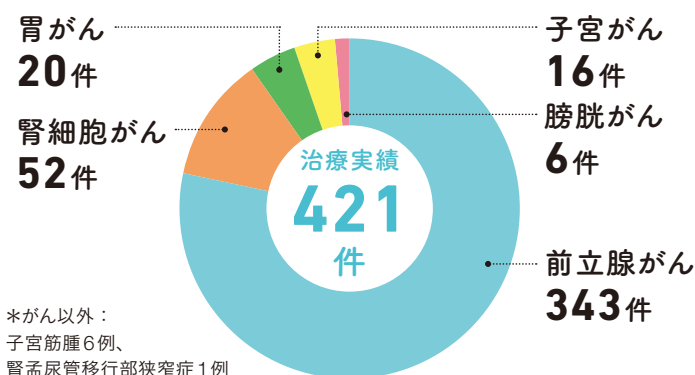
他にも、消化器外科では胃がん、婦人科では子宮がん、子宮筋腫、泌尿器科は骨盤臓器脱、腎盂尿管移行部狭窄症でロボット手術を行っています。

Q3 ロボット手術は全然痛くないの？

A ロボット手術は開腹手術よりも傷が小さく体に負担が少ないものの、術後に痛みはあります。

手術を受ける患者さんには「患者支援センター」で専門スタッフが疼痛コントロールやカウンセリングで、痛みや不快感をフォローします。

数字で分かる 東部病院のがんロボット手術



2012年以来、前立腺がん手術を筆頭に400件を超えるロボット手術を行ってきました。件数を重ねることで手術の技術や、術前・術後の支援体制も向上しています。

ダビンチによる前立腺がん手術費用例

約 **1.5** 万円 ～ 約 **26** 万円

70歳以上 低所得者I

70歳未満 年収約1160万円以上

ロボット手術は従来の開腹手術や腹腔鏡手術と比べて若干高額となりますが、高額療養費制度を利用すると所得に応じて減額されるため、実際の負担額はあまり変わりません。

*詳しくは「ロボット手術センター」のwebページをご覧ください。

LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

東部病院を牽引するリーダーたちの姿・人柄・取り組みに迫ります。

vol.14

統括院長補佐

丸山路之

臨床の第一線から この春、統括院長補佐に

丸山は脳血管障害、いわゆる脳卒中の専門家だ。東部病院の開院時より脳血管・神経内科に所属し、2011年からの7年間は脳神経センター長を務めた。そんな丸山がこの春、センター長を退き、「統括院長補佐」という新たな役職を得て歩み始めた。

「私は組織のトップに立った経験はありませんが、医局長とか部活の庶務とか、責任者を補佐して手伝う仕事に向いているかと思うことはありますね」。

三角院長との信頼関係は、病院内の委員会と一緒に仕事をしたことをきっかけに、10年かけて着実に育まれてきたという。

「組織図でいうと、院長の直下に統括院長補佐がある。理論的にはどの部門、どの職種にも口を出していることになる。病院の運営はすべて多職種で行っていますから、全職種に関与できるのはいいなと思っています」。

剣道が結んだ 思いがけない縁

父は歯科医、祖父や叔父も医師という環境で育った丸山にとって、医療の道に進んだのはごく自然な流れだった。子どもの頃は外交官や特派員にもあこがれたが、高校卒業後は1年間の浪人生活を経て、新潟大学の医学部に進学。医学生時代は剣道部に所属した。

脳卒中内科医を通した35年間
そして今、新たな地点へ

好きじゃなくても稽古も嫌々なのに、なぜかやめず、進学のたびにまた剣道部を選んでしまう」。

だが、剣道は思わぬ縁をもたらした。大学卒業後、地元で働きたいと考えていた丸山は、剣道部の先輩に誘われて東邦大学附属病院の第二内科に入局したのだ。

「剣道をやっていなければ、東邦大学の医局には縁がなかった。それに、今の妻がその医局の後輩だったんです。嫌々でも続けていればいいことがある…(笑)」。

2年間の研修の後、丸山は第二内科の脳卒中グループに入ることを決める。当時の脳卒中グループのトップは、上嶋権兵衛教授。救命救急学の分野で活躍し、後には日本救急医学会の会長も務めた人だ。丸山は当時この上嶋教授に共鳴していた。

脳卒中治療の転換期に 専門家としてスタート

「上嶋教授は救急医療において、脳卒中や心筋梗塞で倒れてから救急車で搬送するまでの時間をカルテから拾い上げて研究していた。現在では最先端に近いやり方ですが、当時は異端視されていました」。

上嶋教授のとりはからいで、丸山は脳卒中の学びを深めるべく、大阪の国立循環器病研究センターにレジデントとして赴任する。当時から日本の脳卒中の最先端、ここが丸山にとって専門のスタート地点となった。

国立循環器病研究センターで学んだ3年間は、脳卒中治療の転換期ともいえる時期に当たった。

MRI検査がようやく始まった頃で、今では脳梗塞の治療として普及しているt-PA療法(血栓溶解療法)もまだ実験段階、血栓回収療法など考えられていなかった。

「そのころまでは脳卒中といえば専ら寝かせておくだけ。リハビリはあっても慢性期にやるもので、急性期病院にリハビリの専門家はいなかった。薬にしても検査法にしても、そのころから変わり、変化に富んで、面白い時期でした」。

以来、丸山は神経内科医ではなく、脳卒中専門の「脳卒中内科医」を通してきた。循環器領域、あるいは救急の部門として脳卒中をとらえる——それが丸山のアプローチであり、治療への臨み方や動き方が全く変わってくるという。

脳神経センターの発展に 関わることでできた幸せ

関東に戻った丸山は、東邦大学附属病院等を経て、2007年の東部病院開院と同時に脳血管内科部長に就任。初代の脳神経センター長だった國本医師とともに、センターを育て上げた。振り返って、一番の思い出は何だろう。

「脳卒中の治療でも地域連携や多職種での連携が、この10年間でぐっと発展しました。そこに関与できたことです。もっとも國本先生がつくった骨組みに、私は肉づけをしたくらいなのですが、非常にラッキーだったと思います」。

地域連携では「地域連携バス」ができたことが大きい。脳卒中の診療では、施設やかかりつけ医が患者さんの病気のステージに応じた

治療を行う体制が必要となる。それらの施設がグループを組んだものが「地域連携バス」と呼ばれ、丸山はその代表を務めた。

「連携バスを始めた時は、患者さんの紹介や受け入れが自動的にできると思っていました。実際そううまくはいかない。お互いに連絡して、ひと言添え、顔の見える連携を取っています。現職でも、地域の対外的な仕事は、しばらく続けようと思っています」。

楽しく、やりがいを持って 同じ方向に向かってほしい

脳神経センター長として地域と関わってきた丸山。

「ここは行政の対応もよく、特に脳卒中の取り組みにおいて横浜市は非常に優れています。脳血管疾患患者救急医療体制が整っていて、人口370万規模の市としては日本で一番といつてよい」。

では、東部病院の今後については、どう考えているのだろうか。

「開院から10年経ってみると、職員一人ひとりが、いろいろな考えを持っていることが分かります。みんなの考え方が違っても、同じ方向を向いていたい。楽しいとかやりがいとか言葉にすると陳腐だけれど、それぞれやる気が出る仕事をしてほしいですね」。

患者さんに良い医療を提供するには、働いている人が幸せであることも大事。それをさらに進めていきたいと語る丸山。総職員数1406人、29職種。そのすべての人と関わるべく、今日も執務室を飛び出し、病院内を巡る。



2018年4月から、丸山先生は院長の代役とも言える役割として「統括院長補佐」に就任。開院11年目に入り、これからの10年を院長とともに歩む。

丸山路之
Michiyuki Maruyama

済生会横浜市東部病院
統括院長補佐

1983年新潟大学卒業。東邦大学医学部附属病院第二内科入局。国立循環器病研究センター、川崎社会保険病院の勤務を経て2007年東部病院へ。脳血管内科部長、脳神経センター長を務め、2018年4月より現職。日本脳卒中学会専門医、日本内科学会総合内科専門医・指導医等。



英国製のメモ帳は大のお気に入り。使い心地が良く、医師になった最初の2年を除き同じものを毎年、銀座伊東屋で揃える。もう34冊目にもなるという。



趣味は車。91年に購入したイタリア車を今でも通勤に使っている。このミニカーは10年間片腕だった元部下からのイタリア土産。

NEWS & TOPICS

最新の機器で青あざのレーザー治療が受けられます

当院皮膚科では青あざとよばれる「太田母斑」「異所性蒙古斑」「外傷性色素沈着症」に対し、照射性能の高い最新機器を用いたレーザー治療を行っています。生後1か月の乳児から成人までが対象となり、すべて保険診療、完全紹介制です。



アレクサンドライトレーザー Alex II

受診方法 他医療機関からの皮膚科宛の紹介状をご持参の上、
平日8:30～11:00に総合受付へ。(レーザー診療担当医在勤曜日 火・水・金)

【太田母斑】

上下まぶた、白目の部分、頬、側頭部、額、鼻、耳など三叉神経領域に現れる青あざです。出生直後に現れる場合と思春期頃から目立ってくる場合とがあります。

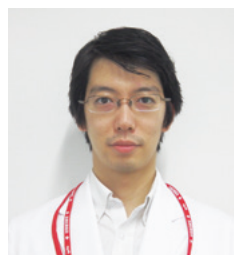
【異所性蒙古斑】

新生児の腰やお尻に見られる蒙古斑が、手足や顔などにできたものです。大きいものや色の濃いものは自然消滅しにくいので、レーザー治療の適応となります。

【外傷性色素沈着症】

外傷により皮膚の中に砂やタールなどの色素が閉じ込められてしまったもの。レーザーで除去が可能ですが、色素の種類によっては取れにくいケースもあります。

診断と施術は専門的な知識と豊富な治療実績を持つ医師が担当いたします。



西本周平

Shuhei Nishimoto

済生会横浜市東部病院
皮膚科部長代理
日本皮膚科学会専門医・指導医

あざ自体は命に関わるものではありませんが、整容面への影響から患者さんやご家族にとって大きな負担となり得ます。乳児期に治療を開始することでよりよい結果が得られるよう、これまで培ったレーザー治療の経験を活かして診療を行っていきます。

かくれ脱水を予防しよう！ 初夏から注意

脱水症になりかけているのに気づかないまま対策が取れていない状態が「かくれ脱水」

「かくれ脱水」を放置すれば一気に重篤へ進み、最悪の場合は命に関わることもある危険な状態です。熱中症を伴う重い脱水症は、梅雨のおわりにかけて増えてくる傾向にあります。予防のために、のどが渴いているという自覚がなくても、こまめな水分補給を心がけましょう。旅行中の脱水症対策には、水に溶かして飲むパウダータイプの経口補水液の携帯をお勧めします。



谷口英喜

Hideki Taniguchi

済生会横浜市東部病院
患者支援センター長

こんなシーンに注意！



屋内

マンションのように気密性の高い集合住宅は風通しが悪く、汗が蒸発しにくく体温が下がりにくいので、熱中症のリスクが上がります。



夜間

コンクリート製の住宅では、夜間に室温が上がりやすいので特に注意を。トイレに起きたくないからと水分摂取を抑えるのはNGです。



運転中

トイレの回数を減らすために水分を制限しがち。乾燥した車内は体温も上がりやすくなります。飛行機の機内も同様に注意が必要です。

周術期支援センターの名称が患者支援センターに変更になりました。

患者支援センター (旧 周術期支援センター)

センター長：谷口英喜

手術を受ける患者さんの支援を目的とし、2016年に開設した周術期支援センターは、この2年間で支援システムも整い、確かな成果を得ています。これまで手術の患者さんだけを対象としていましたが、全ての入院患者さんを対象として支援していきます。今後は入院前からサポートを行い、安心して入院していただけるよう、スタッフ一同努力してまいります。

INFORMATION

がんの悩みや不安、どうつき合えばいい？ 緩和ケア教室開催！

がんに伴う悩みや不安を和らげ、その人らしい生き方を大切にする考え方が「緩和ケア」です。東部病院では緩和ケアについて知っていただくために、当院にかかられているがん患者さんご家族を対象とした「緩和ケア教室」を定期的に開催しています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、セラピスト、カウンセラーなど各分野のスペシャリストが分かりやすくお話しいたしますので、ぜひお気軽にご参加ください。



【日時】

6月4日(月)、25日(月)

7月2日(月)、23日(月)

14:00～15:00

【会場】

済生会横浜市東部病院3階多目的ホール

プログラムテーマ詳細はホームページまたはがん相談支援センター、医事企画室へお問い合わせください。

☎045-576-3000

※事前予約不要。当日直接会場へ。

アピアランスケアって知っていますか？ 第32回 がんサロン「さんぽ道」開催

外見ケアで毎日の生活を楽しく素敵に！ がんサバイバーの方必見

がん治療による外見変化への対処を通じて、自分らしく日常生活を送れるよう“アピアランスケア”をいっしょに学びませんか？ 参加対象はがん患者さんご家族です。当院かかりつけではない方もお気軽にお越しください。



【日時】

7月18日(水)

14:30～16:00(開場14:00)

(前半30分のミニ講座。後半はお茶とお菓子を楽しみながらのフリートークタイムです。)

【会場】

済生会横浜市東部病院3階多目的ホール

【お問い合わせ】

がん相談支援センター ☎045-576-3000
参加無料・事前申し込み不要・出入り自由

医者メシ！

ドクターの活力となる「医者メシ」やここぞのタイミングで食べるものなど。今回の特集でお話を聞いた3人の「医者メシ」をご紹介します。



江川 先生

手術後、メンバーへの労いの意味も込めて、カツカレーにカツをトッピングしたWカツベシタルメニューをご馳走します！



石田 先生

手術後のひと息入れる時間に、お気に入りのチョコレートアイスを食べます。この時間が至福のとき(笑)



谷口 先生

いつも、センターのメンバーが気持ちよく仕事できるように、甘いものの差し入れを欠かしません！



理念

「私たちは、医療を通じて生命を守ります」安心して受けられる医療
患者さんに優しい医療 常に一歩先の医療 地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 医療の質の向上
2. 患者さんご家族の満足度の向上
3. 患者さんが参加する医療の展開
4. 高度な急性期医療および専門医療の提供
5. 地域から選ばれる病院作り
6. 働きがいのある病院作り
7. 安定した経営の確保



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
恵贈 財団 済生会横浜市東部病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1
TEL:045-576-3000(代表) FAX:045-576-3525
http://www.tobu.saiseikai.or.jp/